

追悼

大田原 亨先生 を偲ぶ



去る4月28日、元北海道医師会代議員会議長大田原 亨先生がご逝去され、5月2日に葬儀が執り行われました。

情報広報部では本号に葬儀で述べられた弔辞を掲載することといたしました。

ここに大田原 亨先生のご功績を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

—情報広報部—

弔 辞

北海道医師会会長 飯塚 弘志

故大田原 亨先生の葬儀にあたり、謹んで御霊前に哀悼の意を表し、北海道医師会を代表して、心から惜別の言葉を申し上げます。

去る4月28日、先生の突然の訃報に接し、驚きとともに誠に哀しみに耐えません。

改めて、ご家族の皆様の悲しみは、いかばかりかとお察し申し上げ、心から哀悼の意を表する次第であります。

今、こうして大田原先生の穏やかな遺影を前にいたしますと、お元気で活躍されておられました有りし日の先生のお姿が偲べれます。

先生は、昭和23年、北海道大学医学部専門部を卒業後、24年から北見赤十字病院に4年間お勤めになり、28年北見市内に「内科小児科大田原医院」を開設し、今日まで地域住民の医療と健康管理にご尽力されました。

この間、昭和32年から北見医師会理事に就任され、以来、副会長、会長を歴任し、35年余にわた

り地域医療の確保・充実と、医師会の発展向上に尽くされました。

昭和43年には、北見医師会附属准看護婦養成所の所長に就任し、以来24年余にわたり地区内の慢性的な看護婦不足の解消にご尽力され、今日、北見医師会看護高等専修学校に継承されております。

昭和53年には、夜間の一次救急医療体制を確立するため、医師会館、准看護婦養成所、そして北見夜間急病診療所を併設した北見医療センターを建設し、自ら13年余にわたりその診療所長として献身的に対応されました。

翌54年には休日・夜間における重症患者への対応のため、病院群輪番制を導入し、地域内医療機関の連携体制による安定した休日・夜間診療体制を確立されました。これが定着したことを受けて、平成9年、北見夜間急病診療所はその任を終え、日赤病院内の直営診療所となり、同じ名称で現在も存続されております。

北海道医師会では、昭和39年から36年余の長きにわたる代議員の任期中に、副議長を14年間、議長を18年間務められ、代議員会を主宰し、医師会の運営と発展に多大の貢献をされました。

日本医師会においても、24年余にわたり北海道医師会選出の代議員として会員の声を中央に届け

ることに最大限のご努力をされました。また、昭和57年から14年間、北海道医師会を代表して日本医師会諸規程検討委員会の委員を務められ、特に昭和63年には委員長に推挙され、現在の日本医師会館の平成元年度移転新築に向けて、定款諸規程等の改正にご尽力されました。

さらには、北見地方精神保健協会会長、北見保健所運営協議会会長、北海道警察北見方面公安委員会委員長、北海道医療審議会委員など、数多くの要職にも就かれ、北見地区のみならず、北海道民の保健・医療・福祉の発展向上に寄与されました。

これら幾多のご功績が認められ、北見市長表彰、北海道知事表彰、厚生大臣表彰を受賞される一方、平成2年に藍綬褒賞、平成13年に勳五等瑞宝章を受章されております。

先生は、決断力、行動力にたけ、とても人間味にあふれた包容力のある方であり、医師会員はもとより地域社会各層からの信望が厚い方でありました。

今、思い出しますことは、医師会の懇親会の席では、冷たいビールは決して飲まれず少しぬるめのビールを好まれ、常に明るく楽しいお酒をたしなまれる方でありました。

先生に再びお会いできないのは誠に寂しい限りであります。

私どもは、先生が今日まで北海道の保健・医療・福祉の向上に捧げられました情熱と尊いご遺志をしっかりと受け継ぎ、後世のために努力を傾注してゆく決意を新たにしているところであります。

先生の長年にわたるご功績をたたえますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。

大田原先生、どうぞ安らかにお眠りください。



お別れの言葉

北見医師会 服部 三郎

大田原先生、Oさん。

入院わずか1ヵ月半で突然お別れしなければならぬとは夢にも思ってはいませんでした。

貴男は昭和23年、私は24年に大学を卒業し北見赤十字病院で出合いました。結核予防法、優生保護法の関係で二人とも早速北見医師会に入会させられました。

お互いに医局費の捻出には個人的に苦労したばかりに、いつしかOさん、HAさんと呼び合う間柄となりました。それぞれ昭和28年、31年に開業して保険診療の苦難の道が始まりました。

Oさんは先に北見医師会代議員として、私は北見ブロックの独立誕生を期に、昭和40年より道医師会理事として貴男に助けられながら、地方医師会としては珍しく呉越同舟の格好で札幌への二人三脚の旅が始まりました。

以来約30年間ブロック内の諸先生方の協力を得て、当時は夜行列車の乗り越しを心配しながらお互いの責任を果すことができました。いつも留辺蘂での起し役は俺なんだよなあと貴男はこぼしておられました。

30年の間には小泉純一郎代議士が2度目の厚生大臣としておしごびで北見に来られた折には、オホーツク医療圏について陳情し、また日本医師会には後日、日医会長になられた村瀬常任理事を北見にお呼びして、凍ったオホーツク海上で流水のオンザロックを片手に北見地方の医療の実情を理解していただきました。全部先生が情報を得た上での仕事でした。でもいつも貴男は「HAさんよ、そんな2人だけしか分からぬ難しい話よりも、われわれ開業医は何よりも地域の皆様方からのご理解をいただくことが最も大切なことなのだよ」と、ことあるごとに私にアドバイスしてくれました。

そしてまずは医師仲間からと日赤OBの方々と

相談し、毎月17日の夜は三条の初音に集まって、語り合うデイセット会が誕生致しました。昭和34年の第1回の記事は大田原先生からスタートし、昨年の7月に第500回目を迎えた時は分厚いノートに5冊目に、記念の写真と先生の不滅の記録を残してくれました。これからも元気で頑張りましょうと記されており、これが会への絶筆となってしまうしました。

毎月17日を楽しみに500回以上もおいしい酒をくみかわし、医療その他の四方山話で夜更けまで話し込み、時には野球、スキー、ゴルフ、麻雀を、一度しかなかった20周年の記念旅行等数えきれないほどの思い出をたくさんいただきました。今、伊藤先生ご夫妻と共にかけがえのない出逢いであったことを心から感謝致しております。

貴男は会長職をやめてから特に後援会活動に執念を持たれ、今にして思えば健康には絶対の自信がありとし十数年来東奔西走し医師会の顔として尽くされました。

昨年来、愛し信頼しきった“内の嫁さん”、奥様が身体の不調を訴えられやむなく入院を宣告された時、いち早く決心して禁煙されました。久しぶりの2月22日の医師会麻雀会では前半の好成績に

喜ばれ大変お元気でした。でも3月17日が突然来てしまいました。西館に移られてから顔を見に行きましたらお元気になるれ、HAさん字も書けるようになったから家に帰りたと言われてました。私は28日までは我慢をなさいと言ひ、握力の強くなった温かい手の握手を頂戴して帰りました。

Oさんの手は男性にしては小さく可愛いけれど説得力のある両手でした。今はもう貴男の手の温もりをいただけないと思うと、たまらない淋しさです。

また、唯一のおはこの旅の夜風「花も嵐もふみこえて行くが男の生きる道」これを絶対に聞けないと思うと本当に残念です。

Oさんあなたは黄泉の国に入られるとき、職業は何ですかと尋ねられたら毅然としてきつと永六輔さんと同様に私の職業は大田原亨ですと答えられると信じます。貴男はそういう方でした。私もその内にはそちらに参ると思ひますが、その時は仲の良かった先輩の方々との酒盛りの仲間には是非服部も入れて下さい。お願いします。

大田原亨先生長い間本当にありがとうございました。

お知らせ

日医認定産業医制度研修会のご案内

産業保健の業務に携わる皆様方を対象として標記研修会を下記のとおり開催いたしますので、ご案内申し上げます。

1. 日 時 平成15年7月23日(水)
18:00~20:00
2. 場 所 NSSニューステージ札幌11階会議室
札幌市北区北7条西1丁目
3. 研修内容
「健康情報のプライバシー管理」
講師 保原 喜志夫 産業保健特別相談員
(天使大学教授、北海道大学名誉教授)
4. 単位数 基礎研修後期2単位または生涯研修専門2単位

5. 定 員 50名(先着順、定員になり次第締切ります。)
6. 受講料 無料
7. 申込方法
下記あて申込書を請求の上、お申込下さい。
8. 申込先・問合せ
北海道産業保健推進センター
〒060-0807
札幌市北区北7条西1丁目
NSS・ニューステージ札幌11階
TEL 011-726-7701
FAX 011-726-7702